

第6回国際地籍シンポジウム in 韓国 開催報告

2008年10月8-9日、韓国のソウル近郊にある国際展示場 KINTEX において、第6回国際地籍シンポジウムが開催されました。日本土地家屋調査士会連合会からは、松岡会長、大星副会長、藤木広報部長（日調連研究所副所長）ら総勢31名が参加し、南城制度対策本部委員、戸田研究員、大瀧登記基準点有識者会議委員、長谷川特別研究員、上田研究員の5名が論文発表をしました。



シンポジウム会場 KINTEX

はじめに

国際地籍シンポジウムは、地籍学および実務の進歩普及を図る目的のもと日本（日本土地家屋調査士会連合会）・韓国（大韓地籍公社）・台湾（中華民国地籍測量学会）が連携して創設した「国際地籍学会」の事業の一環として、隔年で開催されているシンポジウムです。シンポジウムの主催は、第1回（1998年）の台湾以来、持ち回りとなっており、第4回の台湾、第5回の日本（京都）に続いて、第6回の今回は韓国で開催されました。今回のテーマは、「Big Stride to connect People to Space（人と空間を結びつける大きな一歩）」であり、FIGの潮流と同様に、「地籍」を「人と空間を結びつけるもの」として捉えていることがわかります。

シンポジウムのおおよそのプログラムは表のとおりです。シンポジウムの主催は大韓地籍公社でしたが、今年2月の李明博大統領政権誕生に伴い、政府機関の組織替えが行われた関係で、今回のシンポジウムは、国土海洋部が主催するイベント「NSDI Korea 2008」の一部として開催されました。日本

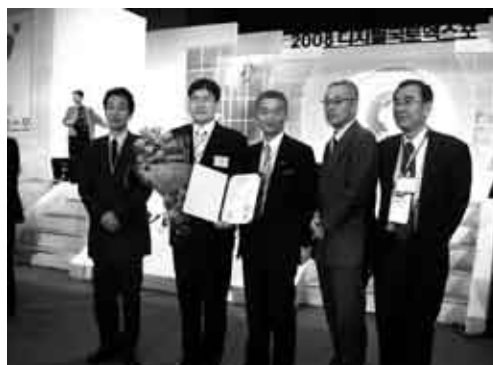
からは、松岡直武会長、大星正嗣副会長、藤木政和広報部長、戸田和章研究員ら先発代表団が NSDI Korea 2008 開会式より参加し、横山一夫副会長、瀬口潤二専務理事、関根一三総務部長、大場英彦財務部長、山田一博社会事業部長ら後発代表団がシンポジウム開会式より参加しました。このほか、兵庫県・旭川会・愛媛会からの一般参加会員、事務局などを含め、総勢31名の参加となりました。

第1日 10月8日

NSDI Korea 2008 開会式では、韓国来賓の挨拶に続いて、メルボルン大学の Ian Masser 客員教授、パーデュ大学 of Gilbert L. Rochon 博士による基調講演がありました。Maaser 客員教授は、「Case studies of SDI utilization in advanced countries（先進国における SDI 利用の事例研究）」と題して、INSPIRE（欧州の空間情報基盤を確立するために、2007年3月14日に欧州議会が発した指令）に関する背景、履行規則、データ要件、利点、課題、現状、ドイツ・英国・リトアニアの事例、教訓、原則などについて述べられました。Rochon 博士は、



NSDI Korea 2008 開会式の様子



NSDI Korea 2008 開会式での記念撮影



シンポジウム開会式記念撮影



ウェルカムディナーの様子

「SDI-National, Regional & Global: Origins, Current Status & Future Prospects (SDI - 国家の・地域の・全世界の：起源・現状・将来展望)」と題して、古代の地図や計算機器から、鳩にカメラを括りつけて空中写真を撮影していた頃の様子、そして現代のコンピュータ技術や衛星技術まで、色鮮やかな写真を交えて紹介されました。

シンポジウム開会式では、まず、韓国の郭正完国際地籍学会会長から開会の辞が述べられました。続いて、大韓地籍公社李星烈社長から歓迎の辞があり、1938年に日本から地籍が導入され、70年を経た今年、韓国の地籍の担当は行政自治部から国土海洋部に移行することとなったが、この変化を地籍制度を発展させる「チャンス」と捉えたいと述べられました。

また、国土海洋部事務局長による歓迎の辞では、このシンポジウムは北東アジアの地籍を扱う専門家が一堂に会する貴重な場であり、3か国の地籍制度に関する情報を交換し、その発展を語り合い、パワーのあるシンポジウムにしたいと述べられました。

続いて、台湾の呉萬順中華民國地籍測量学会理事長から祝辞があり、地籍に関する学術知識と実務経験を共有し、有意義なシンポジウムになることを願うと述べられました。

最後に、松岡日調連会長による祝辞では、「地籍に対する世界的な流れは、権利意識の高まり、高度情報化社会、電子情報化社会への移行という、大きな潮流に背中を押されて、技術の面でも、法整備の面でも、また実務の取り扱いの面でも、大きな変革を遂げている」こと、日本においても大きな変革があったこと、そして、「韓国・台湾の制度と実務を改めてこのシンポジウムで勉強させていただくことで、(大きな展開を見せている日本の地籍制度の)一層の充実発展につなげたい」ということが述べら

れました。

第1分科会「地籍に関する法律、制度、教育」では、次の5つの論文発表がありました。

- 韓国における地籍政策決定構造の変化とその展望 (Mr. Young Hag Kim / 韓国)
- 3次元土地境界とその公示に関する研究 (Mr. Hong-Teak Kim / 韓国)
- 地籍再調査の管理と地震後の地籍補正測量 (Mr. Hui-Hsiung Hung / 台湾)
- ADRによる境界紛争解決 (南城正剛氏 / 日本)
- 日本の筆界特定制度と裁判外境界紛争解決制度に関する研究 (戸田和章氏 / 日本)

パネルディスカッションでは、日本において進められている筆界特定制度や民間型ADRのような裁判外で境界紛争を解決していく制度設計に関心が集まり、官主導による境界確定・確認システムが運用されている韓国や台湾に強い印象を与えたようです。

ウェルカムディナーでは、大韓地籍公社李社長のご挨拶に続いて、李社長、松岡会長、呉理事長の三者間で贈り物の贈呈が行われ、松岡会長の音頭による乾杯、そして、呉理事長の音頭による乾杯をもってはじまりとなりました。

第2日 10月9日

各国代表者会議には、韓国から郭会長、金相洙国際地籍学会名誉会長ら5名、台湾から呉理事長ら5名、日本から松岡会長ら5名が参加しました。会議は、大韓地籍公社の申東顯氏の司会により進められ、まず、国際地籍学会会則第12条に基づき、松岡会長が国際地籍学会名誉会長の追認を受けました。続いて、地籍シンポジウムを3つの分科会に分けて運営進行することに対して、各国から賛同の意見が出るとともに、パネルディスカッションにおいては、パネラーを主催国2名、非主催国各1名の計4名



各国代表者会議の様子



展示を見る参加者

とすることが提案されました。また、韓国が討議案件として提出していた国際地籍学会会長の任期や、台湾が討議案件として提出していたシンポジウムの開催頻度については、現行どおりとなりました。日本が討議案件として提出していた会則の改正案については、一部承認、一部却下され、詳細については、時間の都合上、次回の総会まで持ち越すことになりました。

第2分科会「地籍測量、測位」では、次の5つの論文発表がありました。

- e-GPS VBS RTK を用いた土地補正測定の正確性 (Mr. Wei-hsin Ho / 台湾)
- 空中写真測量技術を用いた国土利用調査の実践的経験 (Mr. Hsieh-Hsien Wu / 台湾)
- 日本における14条地図整備推進のための基準点整備等の動向 (大瀧茂氏 / 日本)
- 地籍測量制度の整備に関する研究 (Mr. Woo-sop Sim / 韓国)
- 韓国の高度測位サービス制度の技術的側面に着目した概念設計 (Mr. Soon-Tae Kim / 韓国)

パネルディスカッションでは、地籍分野と測量分野の統合について日本はどう考えているのか、台湾のeGPS・eMAPの精度や今後の方針はどうなっているのか、世界測地系を導入した前後の日本の地籍の扱いはどうなっているのかなどが議題となりました。

展示場には、75もの企業や大学がブースを設けており、クイズや抽選会などを行って会場を盛り上げていました。シンポジウム参加者一行は、大韓地籍公社のブースで展示の説明を聞いたり、地図出版会社のブースで古地図に見入ったりしていました。

第3分科会「LIS/GIS」では、次の5つの論文発表がありました。

- FKP方式衛星測量、デジタルオルソ地図及び地籍調査 (長谷川博幸氏 / 日本)

- ICT時代における地籍情報及び関連組織の再構築 (上田忠勝氏 / 日本)
- KLISの社会的機能の向上に関する研究 (Mr. Yun-Gu Nam / 韓国)
- 3D建物モデリングと建物測量に基づく応用 (Mr. Vincent Hun-Chin Chiang / 台湾)
- 台北市地籍図の付加価値的な活用 (Mr. Yen Chin-hsiang / 台湾)

パネルディスカッションでは、地籍システム構築における課題、特に、アナログからデジタルへの対応、デジタルデータの管理、3次元空間(建築物)の技術的・法的取り扱いに会場の関心が集まり、活発な議論が行われました。

閉会式では、郭会長、松岡会長、呉理事長が順に閉会の辞を述べ、今回のシンポジウムが有意義であったことを確認し合い、2年後に台湾で開催される第7回国際地籍シンポジウムが有意義なものとなることを願いました。そして、郭会長から、松岡会長に名誉会長証書が渡され、呉理事長に国際地籍学会次期開催地引継書が渡された後、記念撮影が行われ閉会となりました。

日調連開催の晩餐会は、韓国の大学院に在籍しながら地籍の研究をされており、今回のシンポジウム



シンポジウム参加者記念撮影

では連絡調整役も努めてくださった戸田研究員の司会により進められました。大韓地籍公社からは、昨年5月のFIG第7委員会年次大会に引き続き、今回のシンポジウムでも早朝から深夜まで我々をお世話してくださった、申東顯氏（Inje支社長）、金敬日氏（地籍情報ビジネス部）、権日赫氏（広報部）が参加され、流暢な日本語でご挨拶をされました。また、今回のシンポジウム開催に際して尽力された大星副会長および戸田研究員には、松岡会長から労いの言葉がかけられ、シンポジウムが無事に終了した喜びを分かち合いました。

各分科会の詳細および発表論文については、会報12月号以降に順次掲載する予定です。

（取材：広報員 剣持智美）



名誉会長証書の授与



シンポジウム閉会式記念撮影

第6回国際地籍シンポジウム プログラム

日付	時間	プログラム
10/8	9:30-12:00	NSDI Korea 2008 開会式
	12:00-13:30	昼食（和洋中バイキング）
	13:30-13:50	第6回国際地籍シンポジウム開会式
	14:00-16:50	第1分科会「地籍に関する法律、制度、教育」 14:00-15:20 論文発表 15:20-15:50 休憩 15:50-16:50 パネルディスカッション
	18:00-20:00	ウェルカムディナー
10/9	9:00- 9:50	各国代表者会議 プレナリーセッション
	10:00-12:10	第2分科会「地籍測量、測位」 10:00-11:20 論文発表 11:20-11:40 休憩 11:40-12:10 パネルディスカッション
	12:10-13:10	昼食（和洋中バイキング）
	13:10-13:50	展示見学
	14:00-16:40	第3分科会「LIS/GIS」 14:00-15:20 論文発表 15:20-15:40 休憩 15:40-16:40 パネルディスカッション
	16:50-17:20	閉会式
10/10	18:30-20:30	日調連懇談会@ガーデンホテル（日調連単独行事）
	9:00-17:00	テクニカルツアー（日調連から参加者なし）